

「傾聴するとは(聴き方の心構え・ポイント)」

講師 高知市教育研究所 教育相談班

第1回聴き方ロールプレイ講座

平成25年5月23日(木)実施

ねらい

聴き取りの手法を向上させることで、問題の本質を探る力を向上させる。また、保護者の話を適切に聴けるようになることで、対応への不満を防ぐ。

どのような先生に信頼感や安心感を感じますか？

第1位: 子どもの話を聴いてくれる先生
第2位: 指導力に優れている先生
第3位: 様子をこまめに伝えてくれる先生

【2008年、高知市内小・中学校保護者約1200名へのアンケートから】

求められているのは

つまり…

「傾聴」する力

今回のロールプレイ

- 家庭環境のしんどさから問題行動を繰り返す生徒が、同級生とのトラブルで、ガラスを割ってしまったため、聴き取りをすることになりました。

タイプの違う2人の先生役が聴き取るロールプレイを行い、生徒役がどう感じたかを話し合いました。



1人目の先生は、私が話している途中なのに「だけど、いかんやんか」というように、どんどん言われました。そして、売り言葉に買い言葉のようになって、ますます険悪なムードになっていきました。「もう、学校に行きたくない!」という気持ちになりました。



2人目の先生は、私の話を聴いてくれて、「そうやね」と共感してくれました。

「絶対、言わない!」と構えていたのに、「先生は待っていてくれる」「聴いてくれようとしている」という気持ちになり、本音を語りたくなりました。

「傾聴」とは…

耳を傾けてきくこと。熱心にきくこと。《広辞苑 第六版(岩波書店)より》

話を聴く時に気をつけたいこと

- ① 「誰が」言ってきたのかではなく、「何を」言ってきたのかに中心を置きましょう。
同じ内容を言ってきたとしても保護者や子どもによって「～さんが言ってきたから、何とかするしかない」や、「それぐらいのことだったら、我慢してもらおう」等と対応が変わってしまっていないでしょうか。
- ② 受け取る側が、どのように感じるかを常に意識しましょう。
自分たちが「叱咤激励」と思っている言葉が、果たして子どもは「叱咤激励」と受け取っているのでしょうか。
- ③ 一緒に考えていこうとする姿勢、寄り添っていこうとする姿勢を大切にしましょう。
手法も大切ですが、まず、「姿勢」や「気持ち」を大切にしましょう。そのうえで、手法があればなお、よりよい聴き方ができます。

〈受講者の感想〉

- ・ とても実践的で、場面設定も分かりやすく、思わず「ある、ある」と思いながら、考えさせられる場面がありました。また参加したいです。
- ・ 対応の違いで、子どもの気持ちはこんなにも変わってくるのかとロールプレイをする中で、実感・痛感しました。心に寄り添った対応をという言葉も、どの研修でも耳にしますが、こういったものが心に寄り添うというのか、自分自身がよく理解していなかったと、今日の講座を受講してハッとさせられましたし、気付くことができました。

授業力向上のための カリキュラム・マネジメントについて 京都光華女子大学 加藤 明 副学長

平成25年6月7日実施 対象：採用15年次・20年次教員

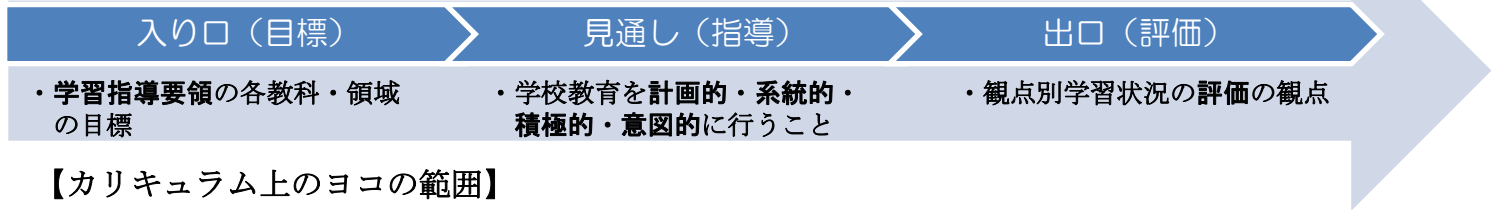


学校の教育目標の実現に向けて、教育課程（カリキュラム）を編成・実施・評価し、改善を図るシステムを活性化することをカリキュラム・マネジメントという。

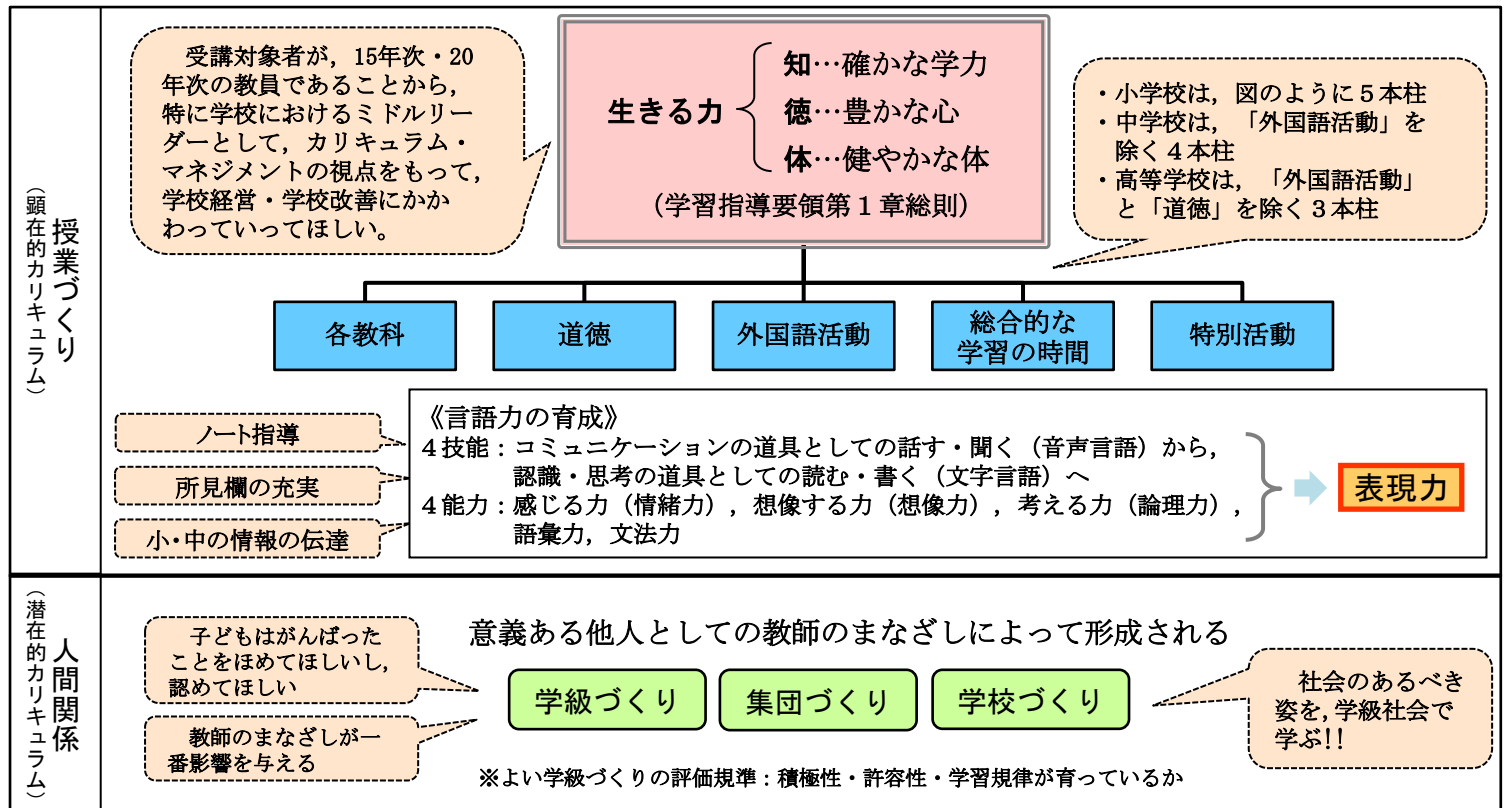


「入り口」から「出口」まで、見通しをもって行うことが大切！

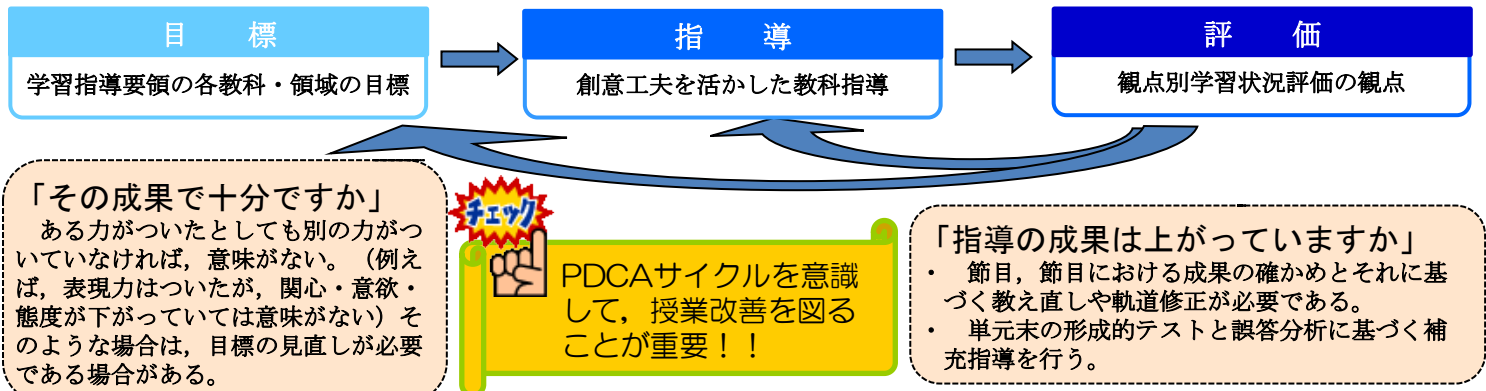
【学校教育目標を実現させるための見通し】



【カリキュラム上のヨコの範囲】



【カリキュラム上のタテの範囲】



【受講者の感想】

- 教材研究から授業改善を図るということについては、学年会等で行ってきているので、さらに校内研などでも取り組み、異学年とも交流し、6年間を見通したものにしていきたい。
- 最も心に残ったのが「誤答分析」。今までテストを返しても間違いを直すだけで済ませていたが、今日のお話を聞いて、子どもたちのつまづきを把握し、教え直せる一番のチャンスをつかみ取っていたことに気付いた。
- 学校の組織の一員として、勤務校の教育目標や地域の実態、特色を踏まえたうえで、これから、RPDCAサイクルについても熟慮して1年間の研修をより充実したものになりたい。
- カリキュラム・マネジメントという言葉だけを聞くと、特別なもののように感じていたが、加藤先生の講演を聞いて、日頃私が課題として考えていたことだということが分かった。「見通し」「効果的な指導の展開」「軌道修正」「目標の共有化」などの関係を理論として知ることができた。

